

東京には11種類のカエルがいる（外来種は除く）。その11種のカエルを全部見たい！しかも、繁殖シーン（鳴く姿や包接する姿）を写真に収めたい！とこだわって、最近の趣味はもっぱら「東京のカエル探し」になっていた。昨年9月の文化祭では、蟲部屋の一角を借りて、東京のカエル11種のうち、これまでに出会った10種の写真を展示して「カエル総選挙」をやった。その時にどうしても写真が間に合わなかった**東京ガエル最後の1種**が、『ヤマアカガエル』だ。ヤマアカカの繁殖シーズンは冬。東京では西部の平地や山地の湿地で、2月頃の暖かい雨の日に一斉に水辺に集まって繁殖するが、産卵が終わったらパッと姿を消す。繁殖期のピークの日をピンポイントで当てない限り繁殖を観察できないのだ。繁殖期を当てるのは難しいし、正直、ヤマアカガエルは猿江公園にもいるニホンアカガエル（Vol.102）と見た目がほぼ同じ（と、その時は思っていた）。だから、あんまりモチベーションが上がらないなあ…と思ってこれまで後回しにしていた（その結果最後になってしまった）。ただ、残り1種ともなれば、やはり見たい。この冬はヤマアカカを狙っていた。

繁殖期の予想日を外してしまうと、次の繁殖期は1年後…。絶対に外したくないので、ちょっと暖かいアヤしい日には家から2時間かけてフィールドへ。ただ、いざ着いてみたら、まだ何もいない静まり返った真っ暗闇の泥沼に呆然と立ちつくし、とんぼ帰り。…なんてのを何度か繰り返した。そして2月23日、観測史上初めて「2月に東京で夏日（青梅で25.1℃）」を記録し、春一番が吹いた日のこと。暖かいけど雨が全然降ってなかったので（カエルにとって雨は超重要）、まだかもしれないなあ、と、あまり期待せずに現地に着くと、湿地全体が騒々しい！アカガエルたちが鳴いている！！今日が繁殖期のピークだと確信した。ライトで照らすと、池の中から顔を出した数十匹のカエルたちと目が合い、思わずガッツポーズした。

ただここで問題が一つ。先述の通り、ヤマアカカとニホンアカカは見た目がほぼ同じ。この場所は両種が混在するエリアなので、どっちがどっちか分からない！鳴き声が違うのは知っていたが、みんなめちゃくちゃに鳴き合っているの、どいつが発した声か分からない！最後の1種なのに、「たぶんこれがヤマアカっぽい」みたいな曖昧な紹介は避けなかった。困ったなあ…と、よく観察していると、あることに気づいた。オスが鳴くときに**ほっぺたが膨らむやつと膨らまないやつ**がいる！すぐさまスマホで調べると、「**膨らむ方がヤマアカのオス**」と記述があった！（繁殖期のオスにしか使えない識別方法なので、あまり大々的には取り上げられていなかった）違いが見えてくると一気に楽しくなる。ヤマアカカは頬が膨らむ様子がじつに可愛い。鳴き声はキャラララ…と何とも不思議な声。しかも鳴きながら後ろ足をジタバタさせて別のオスに突撃する。なんだこの愛らしいケンカは！こんなにも可愛いならもっと早く探しに来ればよかった。後回しにしたことをヤマアカガエルに謝りながら、湿地に座り込んでじっくり観察して、この日は大満足で帰路についた（ただし、立ち上がったおしりにべっちゃん泥がついていて、それを隠しながら帰るのにとっても恥ずかしい思いをした）。

※いきもの記ではヤマアカカを含めて9種しか紹介していないので、そのうちちゃんと全部紹介します。



ヤマアカガエル *Rana ornativentris* のオス 2026年2月23日 あきる野市  
近い仲間のニホンアカガエル *Rana japonica* は平地、ヤマアカガエルはやや山地寄りにいるが、同じ場所で繁殖することもあり。両種は見た目が非常に似ていて見分けるのが難しい。この湿地でも2種類が入り乱れていた。ただし、ヤマアカカのオスは鳴く時に両頬を大きく膨らませるが、ニホンアカカは頬が膨らまないという違いがあるので、鳴いているオスは見分けやすい。



鳴きながら泳ぎ別のオスに突進！ キャララララ！と鳴きながら、左右の足を交互にばたかせて前進する。そしてメスを待つオス同士が突進してぶつかっている。ジタバタしている様子が面白くて見ていて飽きない。左の写真は、膨らんだ頬の部分の水滴が飛び散っていて、頬が振動していることがよく分かる。



ヤマアカガエルのペア  
上になっているのがオスで、メスに腕を回してしっかり抱きついている（包接）。その後、メスが産卵し、オスが精子をかけて受精させる。